

東京国立近代美術館フィルムセンター

大ホール

日本アニメーション映画史

7月6日(火)～8月29日(日)

一コマ一コマを人間の手で創造し、その膨大な積み重ねによって生み出されるアニメーション映画ほど、作り手の豊かな想像力が求められる映画ジャンルもないでしょう。そして現在、劇場用、テレビ用から個人作家の実験作に至るまで多種多様な作品が国際的な注目を集めている日本のアニメーションが、世界に誇る芸術であることは誰も疑い得ません。しかし、それも一朝一夕で成立したものではないはずす。

そうした日本のアニメーションの源流と展開を、フィルムセンターの所蔵フィルムを通じて探る企画がこの「日本アニメーション映画史」です。長短篇あわせて二三〇本以上の作品を上映するこの壮大な企画には、二つの大きな柱があります。

一つは、「漫画映画」の草創期である大正時代から、日本初の本格的商業ブ



『くもとちゅうりつぷ』

『白蛇伝』



ロダクションである東映動画が軌道に乗る一九六〇年前後までの、多様な傾向の作品を作家別に紹介することです。伝統的な千代紙や色彩セロファンを駆使して国際的に認められた『くじら』(一九五二年)の大藤信郎、教育アニメーションの立役者として長年活躍した山本早苗、他の追随を許さない精緻な切り紙アニメを量産した村田安司、日本映画史の金字塔『くもとちゅうりつぷ』(一九四三年)を生んだセルアニメーションの巨匠岡憲三、日本初の長篇作品『海の神兵』(一九四五年)を発表した瀬尾光世、中国への技術指導でも知られる人形アニメーションの開拓者持永只仁、『お蝶夫人の幻想』

(一九四〇年)で映画界を驚かせた影絵映画の名手荒井和五郎、漫画家という枠を超えて活躍した『ふくすけ』(一九五七年)の横山隆一、東映動画に集って『白蛇伝』(一九五八年)にはじまる長篇カラー作品に貢献した数下泰司など、そうそうたる動画作家たちの系譜に触れることができます。

またもう一つは、一九六〇年代後半から活躍し、アニメーション界に独自の地位を築き上げた二人の作家、岡本の忠成と川本喜八郎の作品の総合的な上映です。木、紙、布、毛糸など多様な素材をスクリーン上に躍動させた岡本と、気品ある人形を用いて幻想的な作風を貫いた川本は、一九七〇年代には

人形劇とアニメの合同イベント「パペット・アニメーション」を定期的開催するなど、ライバルであると同時に盟友でもありました。今回はその功績をたどる試みとなりますが、とりわけ岡本作品については、すでにフィルムセンター展示室にて開催中の「造形作品でみる岡本忠成アニメーションの世界」(四月六日～六月二十七日、七月六日～八月二十九日)とあわせて観覧することで、作品に触れる楽しみを倍加させることができます。

また、夏休みにも重なって開催されるこの企画の特徴として、子どもたちにも楽しめる作品が多数含まれているという点があります。世代を超えて、数々のバイオニアたちが築き上げた国産アニメーションの「真髄」に触れるとともに、その想像力の大海を心ゆくまで泳いでいただければ幸いです。

(研究員 岡田秀則)

〒104-0031
東京都中央区京橋3-7-6
TEL 03-3561-0823
毎週月曜日休館
上映開始時刻
火曜日～金曜日 第1回 15:00～
第2回 19:00～
土曜日・日曜日 第1回 13:00～
第2回 16:00～
HP: <http://www.momat.go.jp/>